

我がまちな名工

技能功労者表彰

昨年11月22日、長年同一職業に従事し、優れた技能を社会発展のために役立て、功績のあった技能職者を顕彰する「平成22年度南国市技能功労者表彰式」が、グレース浜すしで行われました。受賞者の皆さんを紹介します（順不同）。



やまなか まさし
山中 雅之さん
(大堀甲)

金属加工作業工（一般機械器具組立作業工）／経歴25年

昭和60年に株式会社垣内に入社し、25年がたちました。25年の間には、さまざまな問題に直面することもありましたが、諸先輩方の温かいご指導と一緒に歩んできた仲間と共に立ち向かい、乗り越えてきたことが今の自分にとって大きな自信と力になっています。

今後も受賞者として恥ずかしくないよう、日々努力を重ねていきたいと思っています。



かわく ぼ きよし
川久保 清さん
(片山)

金属加工作業工（金属プレス工）／経歴25年

昭和60年に竹中工業（現エスジー）に入社以来、ロボット溶接から始まり、NC（コンピューター制御）タレットパンチプレス、NCレーザー切断機のオペレーターを勤めてきました。この間のNC加工機の発展は目覚ましいものがあり、日々勉強の毎日でした。

これからは今までの経験を生かし、後輩たちの役に立てるように努めていきたいと思っています。



いまい ひろあき
今井 弘昭さん
(白木谷)

金属加工作業工（製銃・製鋼作業工）／経歴37年

昭和48年に株式会社ミロク製作所に入社以来、37年がたちました。その間、機械課、二度の関連会社出向を経て、現在は金属部品熱処理（調質）に従事しています。

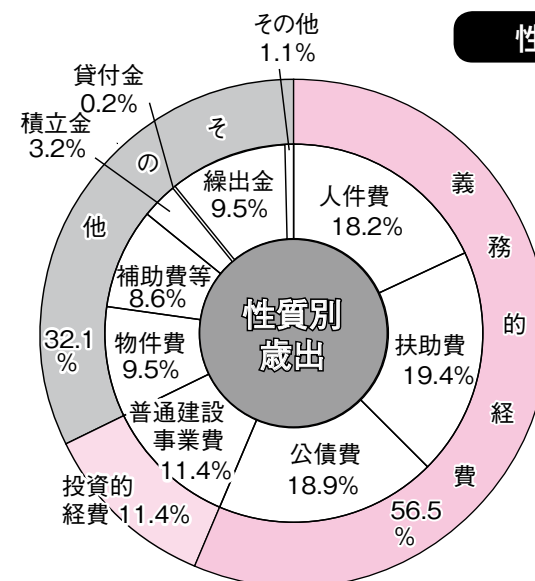
これからは今までの経験を生かし、職場の仲間と共に少しでも企業の発展に役立つよう、今回の受賞を励みに一層の努力をしていきたいと思っています。

21年度の
決算報告

南国市の家計簿

性質別歳出の内訳

204億1,749万6千円



義務的経費	115億2,941万1千円
人件費	37億1,949万7千円
扶助費	39億5,278万8千円
公債費	38億5,712万6千円
投資的経費	23億3,186万7千円
普通建設事業費	23億2,682万1千円
災害復旧事業費	504万6千円
その他	65億5,621万8千円
物件費	19億3,246万9千円
補助費等	17億6,337万3千円
積立金	6億4,688万円
貸付金	4,432万円
緑出金	19億4,307万5千円
その他	2億2,610万1千円
計	204億1,749万6千円

1人当たりの市税負担額 125,064円（1世帯当たりの市税負担額 291,961円）

固定資産税 67,856円 (158,409円)	市民税 47,141円 (110,051円)	たばこ税 7,360円 (17,182円)	軽自動車税 2,564円 (5,985円)	その他 143円 (334円)
--------------------------------	------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------

＊（ ）内は1世帯当たりの負担額です。
平成22年3月31日現在の人口49,405人、世帯数21,163世帯で計算したものです。

4人権学習シリーズ

つらくなくなった時、悲しい時、どうされていますか？なかなかうまく対処できないものではないでしょうか。ふと寂しくなり、同僚と「私たち、軽いうつかもしれないね」と言い合ったことがあります。

新しい部署へ配属された時に、その部署のパソコンの使い方を周りの若い人々に聞けない、聞かれない、中高年の男性が多いという話を聞きました。若者や女性に自分から聞かれないことを聞くことは、自分の汚点にかかわる、ということなのでしょう。経験があり、その分野ではとても力のある人が、実力を発揮することができずに休職に至る例も多いようです。

日本の男性は小さい時から、「男の子は泣かれん」と弱音を吐かないように、しつけられてきました。つらいことがあっても誰にも何も言えないので「黙って耐えるのが男の美学」とされてきました。けれど、こうした男らしさは現代にかなっていません。もしかしたら、ストレスをためこみ、深刻な場合にはうつや自殺に至ることもあることを考えると、こうした男らしさからは卒業する必要があるように思われます。

沽券(こけん)とコミュニケーション

音を吐くこと」ではありません。情報化時代に教育を受けた若い世代の知識と中高年の経験を合わせて、世代を超えた協力でいい仕事をしてはどうでしょうか。

また、仕事や生活、健康面などにおける不安や悩みもさっと口に出したり、相談してはどうでしょうか。

子どもとのコミュニケーション能力を高める教育として、けんかが起こった際に、自分の気持ちを言葉で表現すること、相手がどう思ったかをしっかりと聞くことの二つのやりとりを、必ず実践するという方法があるそうです。

自分がどう思っているのかを把握し、それを言葉にする。そうすれば、日々の会話の中で磨かれ、ひいては周りの人々の思いを聞き理解する能力の向上にもつながるのではないのでしょうか。

※このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

※お問い合わせは
人権啓発広報委員会
(☎880・6569)まで